地域貢献活動 如水館高等学校サッカー部

三原市の如水館高等学校サッカー部2年生の4人は7月29日、地域貢献活動の一環として、三原市の生産者森川稔也さんの圃場で、草取りや運搬作業の手伝いに取り組みました。

同部は、市のイベントや祭りのボランティア、田植えなどに積極的に参加し、地域の方との交流を通して、感謝の気持ちや協力することの大切さを学んでいます。

部員の井出浩貴さんは「サッカーは自分のための練習だが、農作業は地域のために汗を流す大変な作業だった。一生懸命取り組み、とても良い勉強になった」と笑顔で話しました。森川さんは「若い世代が農業に触れ、関心を持つきっかけになってほしい」と話し、今後の活動に期待を寄せました。


▲農作業の手伝いをする生徒

瀬戸田・柑橘栽培の未来へ 行政・JA・生産者が結束 柑橘の地域振興に取り組む

広島県果樹研究同志会瀬戸田支部(広島県尾道市)は8月3日、JAせとだ支店で第76回通常総会を開き、平谷祐宏尾道市長をはじめ、山本深衆議院議員、行政関係者、JA関係者、同志会の会員たち約80人が出席しました。令和7年度の事業報告や決算・監査報告、8年度事業計画・予算案、支部役員改選など5議案が承認されました。

稲葉典文新支部長は「柑橘類の多くは急傾斜地の段々畑で栽培されるため機械化が難しく、手作業への依存度が高い。生産者の高齢化と後継者不足により、栽培管理が行き届かずに園地を維持することが難しくなっている。先人達が作った柑橘園地を次の世代に引き継ぐためにも大規模基盤整備は必ず必要。行政、JA、生産者が力を合わせ大規模基盤整備事業に向け全力で取り組む」と力を込めました。



▲産地の未来を熱く語る稲葉新支部長

特産ブドウ「竹原キャンベル」出荷始まる

JAひろしま竹原ブドウ部会は8月3日、竹原市の同JA竹原ぶどう選果場で特産ブドウ「キャンベル・アーリー」の出荷を始めました。同部会が18戸で栽培し、8月中旬までに約5tを県内の市場へ出荷しました。

「キャンベル・アーリー」の歴史は古く、明治時代から栽培されており、地域では特産品として「竹原キャンベル」の愛称で親しまれています。

竹原アグリセンターの下川幸一センター長は「今年は好天に恵まれ、熟度・糖度ともに順調な仕上がり。この時期にしか味わえないブドウを味わってもらいたい」と話しました。


▲特産ブドウ「キャンベル・アーリー」を目視で確認

イチジク出荷最盛に向け品質確認

JAひろしま竹原イチジク研究会は8月27日、竹原市のJA吉名選果場でイチジク「蓬莱柿」の目合わせ会を開き、生産者やJA職員など8人が参加しました。等級別に並べたサンプル品の熟度や色合い、果頂部の割れ具合などを入念に確認し、出荷基準を統一しました。

同研究会は5戸が約1haで栽培。8月20日に出荷を開始し、10月下旬までに約6tの出荷を見込んでいます。

JA広島果実連の高本大輔技師が収穫や選別時の注意点などを説明し、「イチジクは、アルカリ性土壌を好む果樹なので、土壌診断で状態を確認し、今後の栽培に役立てほしい」と話しました。


▲イチジクの品質基準を確認する生産者

なるほど え～のう！営農情報

水稲

稲わらの有効活用

収穫後の稲わらは、すき込んでしっかりと腐熟させることができれば、地力増進を図る有効な有機物資源となります。

異常気象などの状況下においても収量を確保するためには、稲わらは持ち出しや焼却せず、土壌に還元することが重要です。

ただし、稲わらの腐熟が不十分だとガスわきや浮きわらなどの様々な障害が発生します。

稲わらの腐熟を促進させるには、地温が高い秋のうちにすき込むのが重要です。また、窒素成分や稲わら腐熟促進資材と一緒にすき込むとより効果的です。

土壌診断がお勧めです!!

JAひろしま(三原地域)では、「土壌診断推進事業」に基づき、今年度中の土壌診断を無料で受け付けております。診断の申し込み等は各アグリセンターへお問い合わせください。

資材名	特　長	使用法	写　真
秋施用 石灰窒素	窒素成分の供給と土壌pHを調整することで、稲わらを分解する微生物の増殖に好適な環境をつくります。	すき込み時、 10ａあたり10～20kg	
秋～春施用 アグリ革命 （細粒）	酵素の力で稲わらを分解します。 微生物と違い、土壌環境に影響されることなく、短時間で効果を発揮します。 省力資材でドローンでの散布が可能です。	10ａあたり２kg 降雨後や朝露など水分がある時に散布	
秋～春施用 アグリ革命アクア （液剤）		10ａあたり100mℓ 10~500ℓに希釈して散布	

柑橘

10月からは極早生みかんとレモンの出荷が始まります。出荷前には必ず栽培管理履歴書(兼)生産誓約書を提出し、出荷していただくようお願いいたします。

●摘果

早生・いしじで着果量が多い樹は小玉果や傷果を中心に適正結果量まで摘果します(葉果比25)。特に果実と果実が接触する部分にアザミウマの被害が発生しやすいため、くっついた果実は摘果しましょう。

●夏秋梢の処理

温州みかんの不作樹は夏秋梢の処理を行い、翌春の新梢の発生を促しましょう。強い枝は春枝と夏枝の節(境目)の上で切り返し、弱い枝は春枝と夏枝の節(境目)の下で切り返します。直立した夏秋梢は樹形を乱すため、基部から除去してください。

●収穫・選別

極早生みかんは着色基準に達した果実から収穫を行います。軸は2度切りし、軸長にならないように注意してください。選別は明るい場所で行い、生傷果や日焼け果は排除してください。レモンは果実に衝撃を与えるとこはん症が発生しやすいため、丁寧に扱ってください。収穫かごやコンテナに緩衝材を用いるのも有効です。

●病害虫

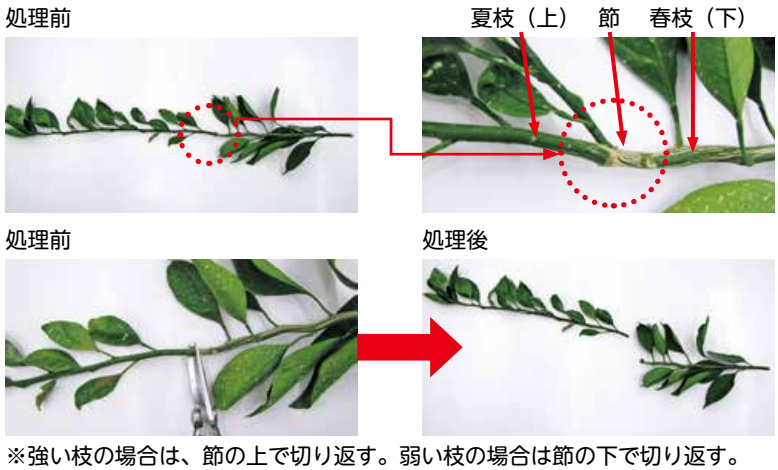
・アザミウマ類

温州みかん、はるみ、ネーブルなどを中心に秋期のアザミウマ類被害が目立っております。着色期にスピノエースフロアブル6，000倍(7日前、2回以内)を散布しましょう。

・ミカンハダニ

ハダニが発生している場合はコロマイト水和剤2，000倍(7日前、2回以内)を散布しましょう。

●夏秋梢処理の方法



※強い枝の場合は、節の上で切り返す。弱い枝の場合は節の下で切り返す。

落葉果樹

収穫終了や終盤を迎えている品目があります。樹体では、気温の低下とともに落葉までに貯蔵養分を蓄え、次年度へ向けて準備を始めています。

収　穫

カキは果皮色を目安に収穫期を判断します。「富有」では果実全体で判断し、「西条柿」はヘタ部と果頂部で判断します。熟期が進み収穫が遅れ

ると果頂部が軟化することがあるため注意します。

イチジクは、気温の低下とともに小玉果や着色不良果が多くなります。食味不足と感じたら早めに収穫を切り上げます。

キウイフルーツは、成熟期の果実硬度が高く、果皮色が変化しないため、収穫適期の判断が難しいです。産地では、糖度6～7％を目安とすることもありますが、おおよそ今月中旬くらいから収穫を開始します。収穫が遅くなると霜害を受け貯蔵性が劣ることがあります。

引き続き、品目に関係なく収穫する際は、品質を維持するため果実温の低い早朝に収穫します。

肥培管理（土づくり、元肥の施用）

毎年高品質果実を生産するためには、樹が細根を多く発生し、養水分を安定的に吸収できるような土壌環境にすることが重要です。そのために、堆肥等の有機物の投入や石灰質資材を施用し、根が活動しやすい環境を整えましょう。有機物投入の際は、必ず完熟した堆肥を投入します。腐植が不十分な堆肥の投入は、白紋羽病の発生（写真）や生育阻害等の要因となりますので絶対に投入しないようにしましょう。未熟な堆肥の見分け方は、強い臭いが残っている、水分含量が多くベトベトしている、堆肥が黒褐色ないし黒色ではなく堆肥原料のままの色をしている等を確認します。

また、翌春の根の活動開始時に肥料がしっかりと吸収できるよう元肥を施用します。品目ごとの施用時期・量は表1のとおりです。施肥基準（成木1樹あたり）を参考に施用してください。



写真：白紋羽病被害樹と被害根（イチジク）…根に白いカビが寄生し根の腐敗を引き起こし早期落葉など樹勢低下となり被害がひどい場合は枯死に至る。

表1　施肥（元肥）と土づくり　　＊施肥量等は成木1樹当りの量（目安）

品　種	成木10a当り植付け本数（目安）	施肥（ひろしまフルーツ元気866）		堆肥		マリンカル（苦土石灰）		粒状エコマグ	
		時期	施肥量	時期	施肥量	時期	施肥量	時期	施肥量
モモ	25本	10月	3.0kg	10～11月	2袋以上	10～11月	4.0kg		
カキ（富有）	25本	10／下	3.5kg		2袋以上		4.0kg		
カキ（西条）	20本	10／中	4.0kg		2袋以上		5.0kg		
イチジク	27本	10／下	3.5kg		2袋以上		4.0kg	客土（マサ土を2～3㎝）	
ブドウ（ピオーネ）	長梢12本	10月	5.0kg		4袋以上		8.5kg	10月	3.0kg
	短梢27本	10月	2.4kg		2袋以上		4.0kg	10月	1.4kg
ブドウ（キャンベル）	長梢15本	10月	8.0kg		4袋以上		7.0kg	10月	1.0kg
ブドウ（ベリーA）	短梢30本	10月	4.0kg		4袋以上		3.5kg	10月	0.7kg
キウイフルーツ	20本	10／中	4.0kg	1～2月	3袋以上	1～2月	5.0kg	客土（マサ土を2～3㎝）	

堆肥は10a当り1t以上の施用を目標に設定。ただし、未熟な堆肥は施用しない。
粒状エコマグ…天然水マグに天然硫マグを混合した苦土肥料。ケイ酸、鉄、マンガン、ホウ素含有。

家庭菜園

秋冬野菜の植え付けは順調でしょうか。植え付けがひと段落している方も多いと思います。

さて、今月は今からでも播種可能な「小カブ」の栽培についてご紹介します。

「カブ」はアブラナ科の野菜です。冷涼な気候を好むため、秋まきが最適です。新鮮なカブはみずみずしく生でも食べることができます。ぜひ、家庭菜園で栽培した新鮮なカブを味わってみてください。

圃場準備

牛糞などの有機物、石灰質資材、肥料を施用します。有機物を施用することで肌がきれいで肉質の柔らかい品質の良いカブを収穫できます。小カブの栽培では全量基肥にて肥料を施用します。

播種～間引き

カブの栽培は直播が基本です。条播きや点播きを行い、子葉展開後、本葉2枚、本葉4枚ごろなど複数回に分けて間引きを行います。株間が10～15㎝となるように間引きを行いましょう。

病害虫

カブ栽培において問題となる病害虫は「根こぶ病」と「キスジノミハムシ」です。根こぶ病は根がこぶのようになります。こぶが形成されると養水分の吸収が阻害され生育が遅れるほか、激発した場合は枯死します。キスジノミハムシは成虫が葉を食害し、幼虫が根を食害します。根が食害されると品質が低下します。

おすすめ資材

こだわり健肥

広島県産の完熟たい肥。完熟のため雑草の種子の混入と窒素飢餓のリスクが少ない。



AGエコレット266

国内の未利用資源を活用した堆肥混合肥料。安価で小カブ栽培にはピッタリ。



オラクル粉剤

根こぶ病菌の密度を減らすことが可能な根こぶ病対策剤。



スタークル顆粒水溶剤

キスジノミハムシに効果のある殺虫剤。残効性も比較的長いため発生初期までの散布が望ましい。



Information お知らせ

地区別組合員集会　開催のお知らせ

令和５年４月１日に発足した当組合も、組合員の皆様のご支援により３年半が経過いたしました。これからも、「組合員との徹底した話し合い実践運動」を通じて、組合員の皆様の意思を事業運営に反映していきたいと考えております。

つきましては、組合員の皆様のご意見を頂戴したく、全組合員を対象に下記のとおり地区別組合員集会を開催させていただきます。大変ご多用のこととは存じますが、ご参集の程よろしくお願い致します。



【集会の内容】

①ＪＡ運営や事業・活動の実施方針について
②支店情勢・取り組み状況について　など

【日程】

開催日時		会　　場
11月５日(木)	10：00	せとだ支店 ２階 大会議室
	14：00	三原支店 ２階 大ホール

『家の光』増刊号
「2027年家の光家計簿」の申し込みについて

家の光の家計簿は増刊号として家計簿のみで販売しています。

※『家の光』12月号に別冊付録としては付きません。
家計簿をご希望の方は、11月30日(月)までに各支店にご注文ください。



『家の光』増刊号
2027年家の光家計簿 日記付き　●定価660円(税込)

農業用資材の廃棄物の回収について

農業用資材の廃棄物回収を三原市および竹原市内を対象に実施する予定です。

農業用廃プラスチック類、農薬および空容器は産業廃棄物に指定されており、農業者自らの責任で適正に処理することが義務づけられています。

当JAにて廃棄物回収等の事務代行を行いますので、ぜひご利用ください。

※詳細につきましては、次号でお知らせいたします。



11月 お知らせカレンダー

※予定が変更する場合があります。ご了承ください。

【アグリセンターの休日】
三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原

【営業時間】
8：30～17：00

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
三原		三原					三原							三原	廃プラ回収 竹原地域	廃プラ回収 竹原地域		廃プラ回収 三原地域		三原ふれあいまつり	三原	三原						三原	
三原西		三原西					三原西							三原西							三原西	三原西						三原西	
本郷		本郷					本郷							本郷							本郷	本郷						本郷	
久井		久井					久井							久井							久井	久井						久井	
鷺浦		鷺浦					鷺浦							鷺浦							鷺浦	鷺浦						鷺浦	
せとだ		せとだ					せとだ							せとだ							せとだ	せとだ						せとだ	
竹原		竹原					竹原							竹原							竹原	竹原						竹原	